「米国のベネズエラ攻撃」　2026年01月06日

正月の3日、米国のトランプ大統領は、ベネズエラの軍事施設への攻撃を命令し、その間、ベネズエラのマドゥロ大統領を拘束し、米国に連行したというニュースを聞き、驚き入った。攻撃と連行は見事な作戦だったらしく。ベネズエラの40人の軍人、民間人を殺害し、短時間で米国の目的を果たした。マドゥロを連行した理由は、米国への麻薬密輸に関与しているからで、麻薬のために米国では何十万人が死んでいると言う。最近、ベネズエラから小舟で、麻薬を米国に運んでいるという理由で、攻撃され、100人以上が殺されている映像を見せられた。本当に麻薬を運んでいたのか、それなら拘束して証拠を確かめ、裁判にかけるのは筋ではないか。問答無用の殺害は、国際法違反である。米国のやることに異議申し立てができないことが腹立たしい。米軍は、原子力空母をはじめ、多くの艦艇をベネズエラに近づけ、圧力を高めていた。しかし、今回のような軍事作戦を強行するとは思っていなかった。米国は、数カ月前から、緻密な計画を立て、ベネズエラの政権転覆を狙っていたのである。麻薬の取り締まりなら、米国の港と空港の税関で阻止すればよいものを、軍事攻撃をし、身柄を拘束するなど、とても常識では考えられない。米国、殊に、経済的利益を追求するトランプは、世界最大の埋蔵量を持つ石油の利権を得たいというのが、最大の理由ではないか。今後、米国がベネズエラの政治を運営すると言う。こんな傲慢があろうか。

マドゥロは、強権をもって大統領になった人で、その後も、独裁的な政治手法で、反体制派を迫害し、国外に800万人も逃れている。石油があるにもかかわらず、経済的に安定せず、国民は貧しい生活を強いられ、体制の変革を求めていると聞く。マドゥロは強力な反米主義者である。トランプは、「米国の裏庭」と言われる南米に反米主義者の存在が許せないらしい。今年のノーベル平和賞は、マドゥロ独裁政権に反対し、民主主義を求めるマリア・マリナ・マチャドが受賞した。この受賞には、彼女のトランプ一辺倒に疑問が持たれている。ベネズエラ国民の多くは、マドゥロ政権の崩壊を喜んでいると報道されている。しかし、どんな政治状況であろうとも、主権を持つ国に対し、軍事力をもって踏み込み、政治体制を転覆させるようなことは、断じて認められない。

国連憲章の前文には、「基本的人権と人間の尊厳及び価値と男女及び大小各国の同権とに関する信念をあらためて確認し、正義と条約その他の国際法の源泉から生ずる義務の尊重とを維持することができる条件を確立し、一層大きな自由の中で社会的進歩と生活水準の向上とを促進すること」と謳い、1章2条の4で「すべての加盟国は、その国際関係において、武力による威嚇又は武力の行使を、いかなる国の領土保全又は政治的独立に対するものも、また、国際連合の目的と両立しない他のいかなる方法によるものも慎まなければならない」と定めている。人間が尊厳をもって生きることを認める基本的人権の尊重、そして、主権を持つ国に対して威嚇、武力行使を認めないということが、国際法の基本理念である。米国のベネズエラ攻撃は、明らかに国際法違反である。このことを明確にしないと、世界は弱肉強食に陥り、「力による平和」が蔓延し、人権や正義は消え去ってしまう。

国連のグテレス事務総長は、米国の攻撃を、「国際法の規範が尊重されていないことを深く懸念する。危険な前例になる」と表明している。ロシアのウクライナ攻撃が正当化され、大国の小国への軍事的侵略が黙殺される恐怖の時代となる。世界の世論は、トランプに媚びてか、怒りの論調は少ない。高市首相も、米国の攻撃には触れず、ベネズエラの自由と民主化を促進したいなどと、気の抜けたサイダーのような発言しかしない。生存を保証する人権の尊重、他国への軍事攻撃を止めよと、声を大にして言いたい。